

SAMPLE

特集レポート No. 079

大学発VCの動向

Strictly Confidential



2017年 6月28日

はじめに

- 近年、先端的な技術をベースとする大学発ベンチャー企業がイノベーションの担い手として期待されている。しかしながら日本では、研究開発を経て、事業化され始める段階で資金が途絶えてしまうという問題がある
- 大学発ベンチャーは、シード・アーリーステージ(事業化の初期段階)であることから、民間のベンチャーキャピタルにとってはリスクが高い。そこで事業化を支援する大学発ベンチャーキャピタル(以下、大学発VC)が注目されはじめている
- 本レポートでは、大学発VCを紹介しながら、その仕組みと今後の課題について考察する

本資料の流れ



- I. 大学発VCの概要
- II. 各大学発VCのファンド紹介
- III. 大学発VCの現状の課題と今後の見通し

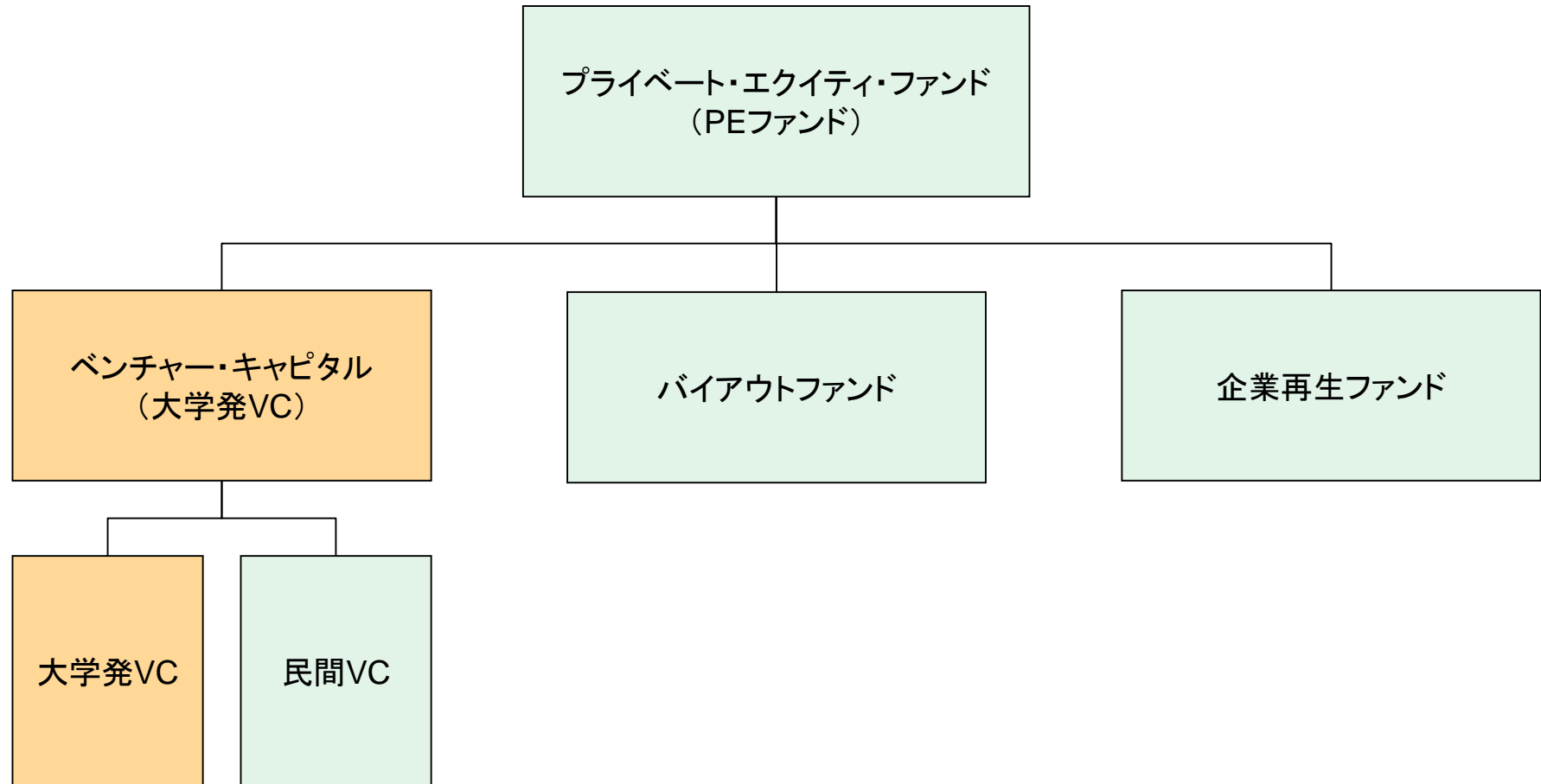
大学発VCとは？

大学発VCの定義

- 大学における教育研究に基づく技術やビジネス手法をもとにして新たに設立した企業(大学発ベンチャー企業)を投資対象とするベンチャーキャピタルである
- 大学発VCの多くは大学の傘下でファンドが組成され、外部機関と連携し、投資を実行する

基本的理解: VCの位置づけ

- PEファンドとは、未公開企業を投資対象とするファンドである
- 大学発VCはプライベート・エクイティ・ファンド(PEファンド)の一種と位置付けられる

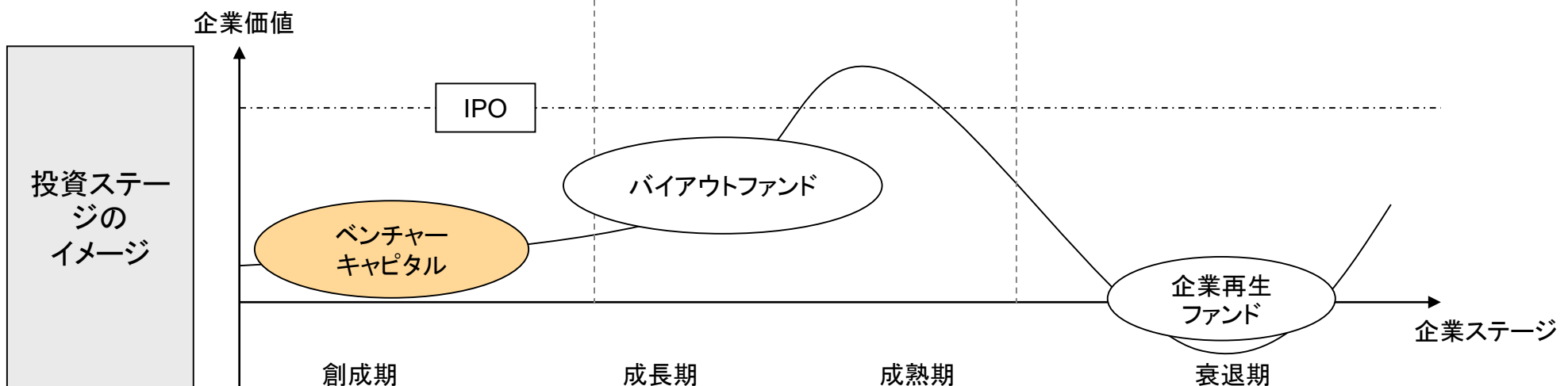


基本的な理解：大学発VCの位置づけ

■ PEファンドは投資対象企業の成長段階によって下記に分類される

PEファンドの投資領域区分

PEファンド 類型	ベンチャーキャピタル (大学発VC)	バイアウトファンド	企業再生ファンド
対象	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新興企業 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成長企業 ■ 成熟企業 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 衰退企業
平均 投資期間	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年~10年 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3年~5年 	<ul style="list-style-type: none"> ■ -
投資 スキル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 案件の発掘 ■ ハンズオン 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経営の再構成 ■ ノンコア事業の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経営再建 ■ 事業売却



SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

